

すべてのステークホルダーとの共創による企業価値向上

2019年に新たに設定したAsahi Group Philosophy (AGP) においては、社員に求める行動指針として「Our Principles」を定め、すべてのステークホルダーとの共創を通じて企業価値向上の実現を目指していくこととしています。ここでは、「Our Principles」において重要なステークホルダーと位置付けている顧客・社員・取引先・株主について、それぞれの代表的な共創の事例をご紹介します。



消費者の環境意識の高まりへの対応を強化

アサヒグループでは消費者の環境意識の高まりに対応し、バリューチェーン全体を通じた環境配慮の取組みを強化しています。

アサヒ飲料(株)ではPETボトル商品にラベルを付けないラベルレス商品のラインアップを拡充しており、2020年4月現在、『アサヒ おいしい水』天然水など4ブランドで展開しています。PETボトルに貼付しているラベルをなくすことで、廃棄物量の削減による環境負荷の低減と、消費者がPETボトルを廃棄する際にラベルをはがす手間を省くことを両立させており、通信販売や宅配を中心に販路を拡大しています。

アサヒビバレッジズ社では、水の主力商品『Cool Ridge』に100%リサイクル素材のPETボトルを使用するなど、プラスチックの容器包装における環境負荷低減に力を入れています。豪州におけるPETボトルの循環利用をさらに促進することを目的に、アサヒビバレッジズ社は、包装・パッケージ製造大手のPact Group Holdings社(以下、Pact社)、廃棄物処理大手のCleanaway Waste Management社(以下、Cleanaway社)と、PETボトルをペレットに加工して新しいPETボトル製造に再利用する設備の共同開発に関する契約を締結しました。このプロジェクトでは、Cleanaway社が自社のネットワークを通じて再利用可能なPETボトルの選別と収集を担い、Pact社

が容器包装における技術面の知見を活用し、PETボトルをペレットに加工します。そして、リサイクルされたペレットの大部分をアサヒビバレッジズ社とPact社が購入し、パッケージに使用します。アサヒビバレッジズ社は2030年までにプラスチックPETボトルにおける環境配慮素材の使用率を100%にすることを目標に掲げており、この取組みによって目標達成に向けた歩みを大きく前進させる計画です。

また、アサヒグループでは商品における環境配慮だけでなく、製造工程全体で環境に配慮する取組みも積極的に行っています。「アサヒグループ環境ビジョン2050」で掲げる2050年にバリューチェーン全体のCO₂排出量ゼロを目指す目標の達成に向け、製造工程における再生可能エネルギーの積極的な導入を推進しています。アサヒビール(株)では『アサヒスーパードライ』缶350ml・ギフトセットのビール類・『アサヒドライゼロ』缶350mlの製造に再生可能エネルギーを使用しています。またアサヒブリュワリーズヨーロッパ社においては、2020年からイタリアとオランダで風力・太陽光発電による再生可能エネルギーを100%使用した生産を開始しており、2021年にはポーランド3工場でも開始を予定しています。

アサヒグループは今後も消費者の環境意識の高まりに対応する取組みを強化していきます。



健康推進施策の強化

アサヒグループは、AGPを踏まえた「アサヒグループ健康推進における基本的な考え方」を2019年3月に策定しました。この考え方に基づき、従業員の健康推進に向けた取組みを進めています。2019年は、組織体制の構築・健康推進施策の実行・評価と改善の3点を中心に取り組んできました。

アサヒグループ 健康推進における基本的な考え方

アサヒグループは一人ひとりが健康づくりに取り組み、
お互いに健全な心身を保ち、
共に充実した人生を実現します。

私達は、

- 自らの健康は自らつくるを信念とします。
- 仲間の健康に関心を持ち、サポートします。
- 生き生きとした職場づくりに協働して取り組みます。
- 一人ひとりが自らに合った健康行動を起こします。
- 健康行動を習慣にし、生涯の健康を獲得します。

組織体制の構築については、取締役会の監督のもとでグループ健康推進会議を引き続き定期的で開催するとともに、事務局であるアサヒグループホールディングス(株)人事部に保健師を配属して健康推進体制の強化を図りました。

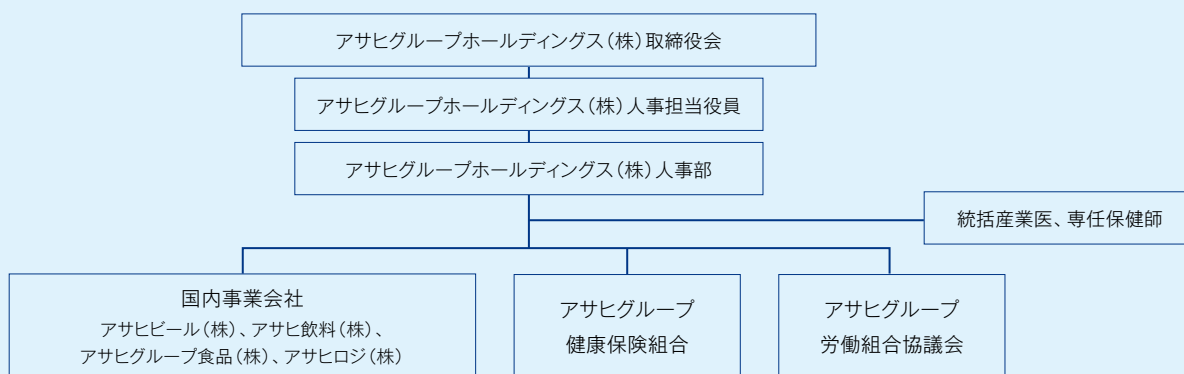
健康推進施策については、喫煙対策を重点的に実施しました。喫煙者自身の直接的健康被害と受動喫煙による健康被害の両方を防止することを目的に、屋内の喫煙場所を可能な範囲で廃止する方針をグループ内に徹底し、取組みを進めています。その結果、2019年は国内事業拠点で28カ所を削減することができました。

評価と改善については、グループ内の健康情報を一元管理するシステムを導入し、継続的かつ効果的に健康情報を蓄積・活用できる仕組みを整えました。今後はこのデータを活用してPDCAを回すための体制を構築していきます。

これらの取組みが評価され、アサヒグループホールディングス(株)は、2020年に健康経営銘柄として認定されました。今後も引き続き、従業員の健康推進に積極的に取り組んでいきます。



グループ健康推進会議体制





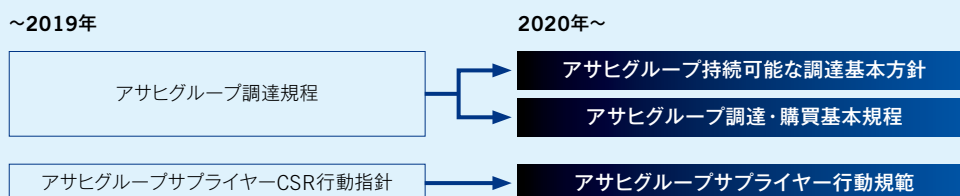
持続可能なサプライチェーン 構築に向けた調達方針類の改正

グローバルな成長基盤の拡大やサステナビリティへの取り組み強化などを背景に、アサヒグループは2020年に調達方針類の改正を行いました。

「アサヒグループ持続可能な調達基本方針」はサプライヤーと持続的な共創関係を構築することを目的とした基本方針として位置付け、「アサヒグループ行動規範」で求めている項目に準拠した内容に改正しました。「アサヒグループ調達・購買基本規程」はアサヒグループの調達担当者が守るべきことをまとめたもので、サプライヤーの選定や契約、発注といった業務のほかに、社内報告や組織体制などについても追加して決めました。「アサヒグループサ

プライヤー行動規範」はサプライヤーが守るべきことをまとめたもので、地域社会の尊重や責任ある飲酒など、サプライヤーに求める行動の範囲を拡大しています。

これら調達方針類の改正にあたっては、「サプライヤー方針説明会」を開催するなどにより、サプライヤーに理解と協力を求めています。今後は「サプライヤーCSRセルフアセスメント質問表」などを通じてサプライヤーのCSR活動について確認し、「アサヒグループサプライヤー行動規範」から逸脱した行為が見られた場合には早急に改善策を図るなど、持続可能なサプライチェーンの構築に向けて取り組んでいきます。



Voice



日本ナショナル製罐株式会社
取締役社長
島田 浩行様

当社は、アルミニウム飲料缶を製造販売している会社です。これまでアサヒビール(株)と連携して、缶の軽量化による限られた資源の低減や炭酸ガス削減に取り組んできました。また、太陽光発電の利用や廃棄物の再生と抑制に努めています。

このたび、「アサヒグループサプライヤー行動規範」改正及びその背景について説明を受けました。行動規範の8項目はすべてが重要な課題であると認識していましたが、改めてアサヒビール(株)を通してその先のお客様と関わっていることを再認識しました。

アサヒビール(株)の求めるさまざまな基準はとても厳しいものですが、安心してお使いいただける製品を安定してお届けできるよう、責任を果たします。そして行動規範に求められている一つひとつを従業員とともに肝に銘じて、継続的に取り組み、今後もアサヒビール(株)とともに共創関係を築いていきます。



株主

IR活動による エンゲージメントの推進

アサヒグループホールディングス(株)は、会社の業績などの財務情報や経営戦略・経営課題、リスクやガバナンスなどの非財務情報について、公平かつ広範な情報開示を行うとともに、株主・投資家との積極的な対話やその声を反映した経営改革に取り組んでいます。

今後も「中期経営方針」で掲げている重点課題を「エンゲージメント・アジェンダ(建設的な対話の議題)」として、中長期的な視点でのIR活動を推進することにより、持続的な企業価値向上を目指していきます。

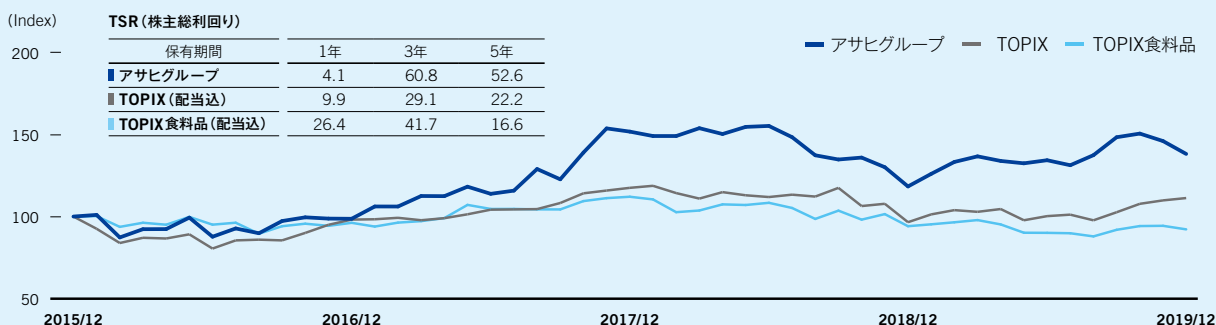
2019年の主なIR活動

活動	回数	内容
アナリスト・機関投資家向け決算説明会	4回	四半期ごとに説明会を開催(第2・4四半期は社長・担当役員による説明会、第1・3四半期はIR・財務担当者による電話会議での説明会)。
アナリスト・機関投資家向け事業説明会	2回	事業会社のトップマネジメントによる説明会。IR Day(酒類・飲料・ESG)、欧州事業説明会を開催
アナリスト・機関投資家IR取材	約300回	アナリスト・機関投資家のIR取材・電話会議。
国内機関投資家向け個別訪問	2回	社長による国内株主・投資家訪問(第2・4四半期)。延べ20社。
海外機関投資家向け個別訪問	2回	社長による海外株主・投資家訪問(北米、欧州)。延べ30社。
個人投資家向け説明会	17回	社長による説明会を開催(Webにも掲載)。 IR担当による全国のビール工場での会社説明会を開催。

IR活動関連の受賞

証券アナリストによる ディスクロージャー優良企業選定 (公益社団法人日本証券アナリスト協会主催)	食品部門第1位 2019 (2003~2014年(12年連続受賞)、 2017~2019年(3年連続受賞))	個人投資家向け情報提供部門 第1位 (2009年、2016年、2017年)		
「IR優良企業賞」受賞 (一般社団法人日本IR協議会)	IR優良企業特別賞 (2013年)	IR優良企業大賞 (2014年)	IR優良企業賞 2019 (2004年、2010年、2019年)	IR向上企業 (2018年)
企業価値向上表彰((株)東京証券取引所)	優秀賞(2018年)			
日経アンユアルリポートアワード((株)日本経済新聞社)	優秀賞(2004年、2015年、2018年、2019年) 2019			
WICIジャパン統合報告優良企業表彰(WICIジャパン)	統合報告優秀企業賞(2015年、2019年) 2019			

株価推移



* 2015年12月30日の終値を100としています。

* TSRは、2014年12月末の終値で投資した場合を基準としています。